

事務事業名	7025 農政対策事業														
担当組織	環境経済部					経済政策課					担当	労働農政担当			
組織コード	R1	15	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R1	01	06	01	01	01	01	記入日	令和元年 5月20日	
	H30	15	01	00		H30	01	06	01	01	01	01			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	06	活力と賑わいを創出できるまち									● 対象 ○ 対象外		
分野	03	地域資源											
施策	71	都市型農業の振興											
事業期間	昭和50年度～令和2年度												
根拠法令通達等	戸田市農業研究会補助金交付要綱 土に親しむ広場の設置に関する要綱						関連計画 施政方針						
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	市民・農業者・市内在住広場利用者・農地所有者												
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姉妹都市での収穫体験や戸田収穫祭を通じて、市民の都市型農業に対する理解を深める。 ・ 農産物の栽培から収穫まで体験することを通じて、市民の農業への理解を醸成する。 												
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸田収穫祭を開催し、姉妹都市等や市内農家が生産した農産物の直売を実施する。 ・ 姉妹都市交流事業として、市民を対象に美里町での収穫体験を実施する。 ・ 食育の一環として、学校教育や保育園活動において地元産の野菜等に触れる機会を提供する。 ・ 農地所有者から申出のあった農地を市が借り受けて、農園として整備し、利用希望者へ区画を貸し出している。 												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 (農業研究会)												

2. 実施結果

		平成30年度 執行額(千円)	令和元年度 予算額(千円)	令和2年度 計画額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	土に親しむ広場の管理・運営、収穫祭での農産物等販					
	事業費	5,259	7,982	7,982	7,982	7,982	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	3,423	3,423	3,423	3,423
	一般財源	5,259	4,559	4,559	4,559	4,559	
	人件費	0	8,460.52	8,460.52	8,460.52	8,460.52	
	投入 人員	常勤職員	0人	1.24人	1.24人	1.24人	1.24人
		非常勤職員	0人	0.35人	0.35人	0.35人	0.35人
事業費+人件費		5,259	16,443	16,443	16,443	16,443	

目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績
	活動①	市民農園「土に親しむ広場」区画利用割合		%	年度末の段階で利用されている区画の割合	100	100
活動②	市民農園「土に親しむ広場」応募倍率		倍	募集する空き区画への応募倍率	2	2	2
成果①	収穫祭の参加者数		人	来場者延べ人数	2,400	2,500	2,500
					2,540	2,335	-
成果②	姉妹都市交流事業美里町収穫体験参加者数		人	定員×実施回数	80	72	72
					72	67	-

目標達成状況の分析

B：活動・成果のいずれかを達成した。

<判断理由>
 美里町での収穫体験では、定員を超える応募はあったものの、当日までにキャンセル等もあり参加者は67名となった。
 戸田収穫祭では、暦の関係で12月の開催となったこともあり、例年を少し下回る来場者数となった。
 土に親しむ広場については、前年に募集を行わなかった広場での再開等もあり、200を超える空き区画に対する募集となったため、全体の応募倍率が1.6倍となったが、依然としてキャンセル待ちが発生する状況となっている。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	28年度	29年度	30年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	A	B	<判断理由> 収穫祭における市内農家による地元野菜の販売や姉妹都市での収穫体験の実施に加え、土に親しむ広場の利用率も100%となっており、市民の農業への理解に寄与している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 効率的に事務を行っており、適正な範囲といえる。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	28年度	29年度	30年度	B：事業手法は適正な内容である。
	C	B	B	<判断理由> 土に親しむ広場に対して寄せられる意見、トラブルに対応するため、職員により定期的に広場を訪問している。また、姉妹都市での収穫体験も天候により左右される場合があるものの、例年定員以上の応募があることから、事業手法は適正であると判断できる。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 土に親しむ広場では、利用者から維持管理料を徴収し、姉妹都市での収穫体験では参加者から参加料を徴収するなど、受益・負担は適正であるといえる。

4. 平成30年度中に実施した見直し内容

見直し内容	土に親しむ広場において、同一人物が複数区画を利用しているとの意見が複数寄せられていたことから、防止策として、例年郵送していた文書を窓口で交付することとし、更新者、新規利用者とともに本人確認を実施することとした。
見直しの効果	本人確認実施により、更新手続きを行わなかった者や、手続き前に返還を行った者などなどがあり、複数区画利用防止に一定の効果はあったものと考えられる。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了
	<判断理由> 本市では都市化が進行し、農家数・農地面積いずれも減少傾向にあるため、産業として維持することは困難であるが、収穫祭や姉妹都市での収穫体験等は好評を得ており、市民の食や農に対する関心はより高まっていると思われる。また、余暇の多様化や食の安全性への意識の高まりから、土に親しむ広場の利用希望者は今後も増加していくと考えられる。事業を継続していくことで、姉妹都市での収穫体験等の機会を提供していくとともに、土に親しむ広場を活用した農地の維持管理に努めていく必要がある。
今後の取組方針	姉妹都市での収穫体験や土に親しむ広場など、市民が農業へ触れる機会を創出し、都市型農業への関心を高めることができるよう事業に取組む。